

資料室便り

交通の専門図書館 交通経済研究所資料室

■新着書棚から（新しく受け入れた資料の紹介）



『交通政策への招待』

青木亮，須田昌弥著
ミネルヴァ書房発行
2024年3月／2,860円（税込）
所蔵箇所：信濃町

本書は、鉄道愛好家でもある研究者がまとめた交通論・交通経済学の入門書である。交通とは、人や物の空間的な移動を言う。交通論の目標は、効率性と公平性を基準として、よりよい交通社会の実現を考えることであり、交通経済学は、ミクロ経済学（価格理論）の応用として位置付けられるものである。

本書では、まず交通機関がどのように発展しどのような特性を持つか、競争のあり方に着目して分類した交通市場にはどのような特性があるか、交通の需要分析に用いられる概念はどのようなものであるかについて説明している。次に、交通事業に対する経済的規制と近年の規制緩和について、事例を交えて説明している。さらに、価格理論を用いた運賃の分析、運賃の設定方法、混雑料金とピークロードプライシング、都市・地域経済学の視点を交えた交通投資に関する問題を説明している。そして、都市・地域を取り巻く環境の変化により交通に求められるものも変化しており、公共交通をいかに維持するかという交通政策の課題などが存在すると指摘している。（古森）

■書庫のなかから（所蔵資料の紹介）

『新幹線 軌跡と展望』

—政策・経済性から検証』

角本良平著
交通新聞社発行
1995年7月
所蔵箇所：信濃町

本書が刊行されたのは1995年。東海道新幹線の開業から30年以上が経ち、その誕生の経緯を語る人も少なくなっていた頃であり、この大事業の理解に必要な記録を残しておきたいという著者の思いから著されたものである。当時の生の記録を引用紹介することで模索の経過を再現するようにと心掛け、東海道新幹線をはじめとする鉄道高速化の効果や今後の可能性、限界について論じている。

著者の角本氏は1941年に鉄道省に入り、その後運輸省の官僚として東海道新幹線の輸送計画に携わった人物。以後は運輸省都市交通課長、国鉄新幹線総局営業部長、同監査委員などを歴任している。また、運輸経済研究センター（現・運輸総合研究所）理事長も務め、本誌『運輸と経済』においても長年論稿を寄せていただく等、実学をベースにした交通研究、交通学に多大な足跡を残された。研究業績については、杉山雅洋（2020）『交通学の足跡——角本良平の交通探索の旅路を辿る』にも詳しい。（原）

資料室からのご案内

蔵書オンライン検索、新着図書・雑誌の情報、月別新着図書目録、所蔵社史・年史のリストなどは、資料室HP（<https://www.itej.or.jp/about>）をご覧ください。

担当：古森崇史，原祥太，土方規義，田邊由佳

